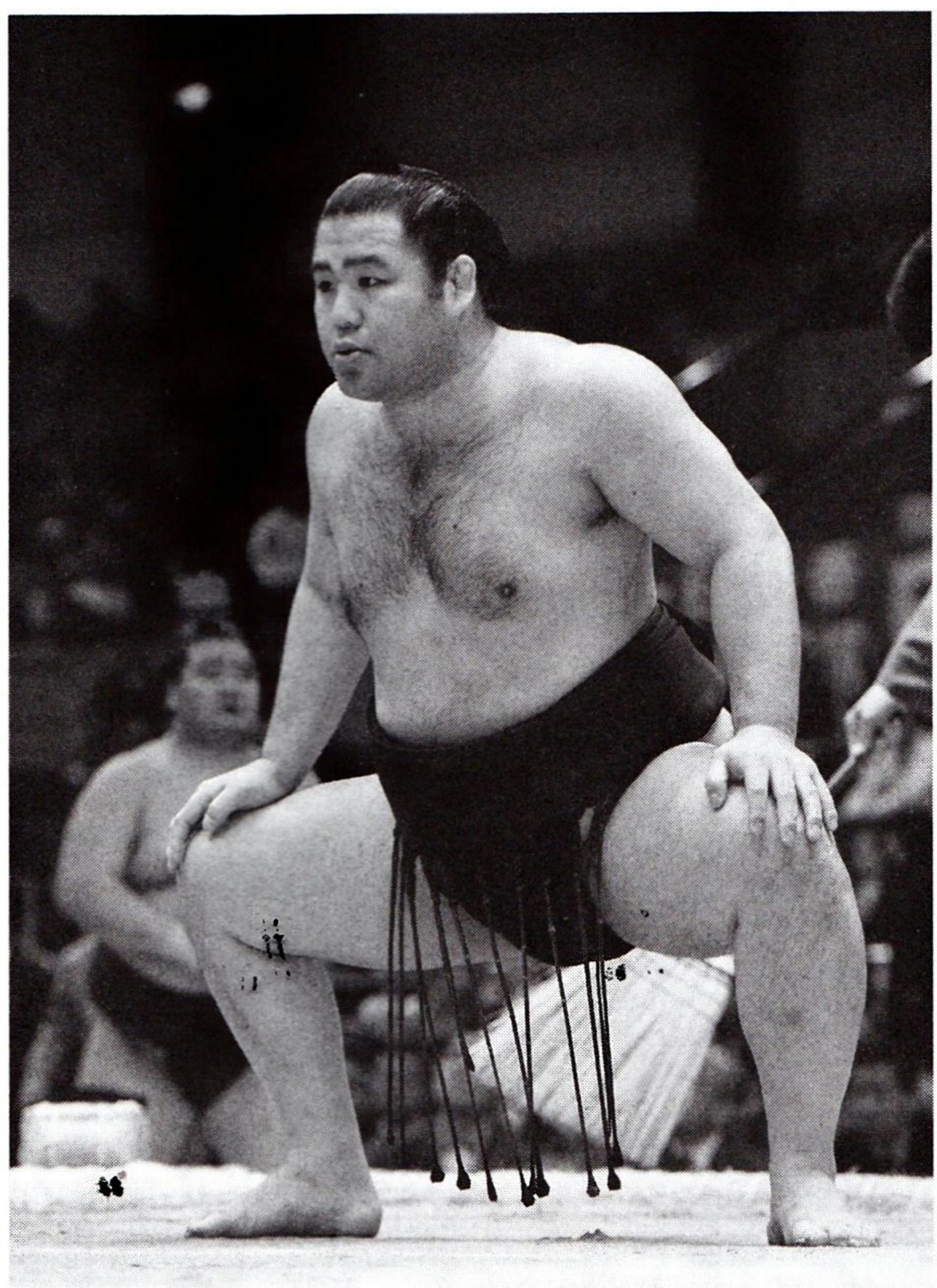


を咲かせる男たちのドラマをつづる、好評連載「力の士」にあり！ 第7回
は、首を痛めながらも、独特のしぶとい相撲と鮮やかな技でファンを沸かせる里山の登場だ。果てしなく続く小兵力士ならではの闘いと相撲探求の

文二荒井太郎



The image consists of four separate vertical panels arranged from top to bottom. Each panel contains abstract geometric shapes made of black and white rectangles. The top panel features a central cross-like shape with horizontal bars at the top and bottom and vertical bars on the sides. The second panel shows a central vertical rectangle flanked by two shorter vertical rectangles on either side. The third panel depicts a central vertical rectangle with a diagonal black bar extending from its top-left corner. The bottom panel features a large central vertical rectangle flanked by two larger diagonal black bars extending from its top-left and bottom-left corners.

と痛めながらも、独特のしぶ
相撲と鮮やかな技でファン
沸かせる里山の登場だ。果
てしなく続く小兵力士なら
ではの闘いと相撲探求の
旅とは。

ひたむきに努力を積み重ね、土俵上に花を咲かせる男たちのドラマをつづる、好評連載「力の士」とあります！ 第7回

悲願の幕内復帰と幕内勝ち越しへ 33歳にしてなお求める理想の相撲

高校卒業後は禧久氏の母校でもある日大に進学。全国大会で上位入賞を果たす活躍を見せたがビッグタイトルには恵まれず、平成16年3月場所、大学卒業と同時に三保ヶ関部屋（当時）に入門し、前相撲からスタートした。

手の懷に潜り込み、左を深く差して変幻自在の技を繰り出す相撲ぶりはこの力士ならでは。客席も大いに沸き上がる。それなのに悩みは尽きず、今この相撲は自分が目指しているものではないという。

「相撲はいまだに分からぬ」
ベテランとなつてもなお、33歳の業師は苦悩する。先場所は十両優券を争つて1券。相

**意外にもプロ入り当初
磨いた武器は突き押し**

るだけだ

そんな若さにまかせたはつらつとした相撲で、所要11場所で関取昇進というスピード出世を果たす。18年1月場所で新十両、翌19年3月場所は千秋楽、豪栄道との3敗同士の相星決戦を制して十両優勝に輝き、翌場所の新入幕を決めた。

順風満帆に思えた出世だが、体調は異変をきたしていた。両4場所目、西の4枚目だった

「把瑠都や白乃波（当時、白石）と毎日、稽古していたので自信はあつた。何も考えず、ただがむしゃらに当たつて前に出

テレビエース場所の16年9月
場所は序二段15枚目で7戦全
勝。この時も押し出し（押し倒
しも含む）と突き出しで4勝。
同部屋の把瑠都との優勝決定
戦に敗れ、惜しくも栄冠は逃
した。当時のことを本人はこ
う振り返る。

大きな相手に対し潜る相撲は首への負担が小さくなく、大学時代にすでに痛めていたこともあり、プロ入り後は突き押しに取り組んだ。現に初土俵を踏んだ当初は、押し出しや突き出しの決まり手が圧倒的に多く、寄り切りや投げはあまり見られない。本場所

